

私の戦争体験

築上郡椎田町 進 昭子

私は昭和3年3月28日生れで、当年67才です。農家の次女として生を受けました。兄弟8人でしたが1人死亡致しました。私達が生まれた時代は生めよ増やせよの時代でした。三代家族で全員12人でした。

夜は八放鍋でお汁団子を一ぱい作って、全部食べてしまいました。今考えてみるとなつかしく思います。何を食べても美味しく、小言を言う人はいませんでした。私が小学校3年生頃でした。日中戦争が起きました。

それから間もなく、父に赤紙召集令状が来ました。父は身長が高く、甲種合格でした。

そして1週間後位に家族、親類縁者、近所の方々から軍歌で見送られ、父は汽車の最後車に乗って。テープを流しながら汽車が見えなくなるまで手を振った記憶があります。祖母と母は家に帰ってから、ソツと目頭を押さえていました。その頃は出征することが名誉でしたので、人前で涙をこぼすことは出来ませんでした。

それから3年後位に父は左目を負傷して帰国。

小倉の国立病院に入院致しました。そしてとうとう見えなくなっていました。

間もなく父は家に帰りまして、農作業に精を出し始めました。田畑を合せて二町ばかりありましたので、作物は何でも作れましたけど、人手が足りなくて朝早くから夜見えるまで働いていました。私達兄弟も学校から帰ると手伝いをさせられました。そして出来た米は政府から供出供出と言って出させられました。

そのようにして作った米麦も自由にできない時代でした。そして半年後位に、私は家庭の事情で現在の韓国ソウルに行くことになりました。ソウルは日本と違って道路の両側にはポプラ並木が続いていました。その真中を電車が通っていました。電車に乗るとニンニクのおいがプンプンして気持ちが悪くなりました。

そしてその年の12月8日に太平洋戦争が始まりました。私は女学校一年生でした。

ソウルは12月ともなれば寒く、零下6度か7度くらいではなかったかと思います。

全員学校の運動場に出るように校内放送がありました。その日は特別寒く、風が吹きまくり粉雪が散らつていました。スカートがめくれ上ってそれを押さえ押さえして、太平洋戦争の開戦のニュースを聞きましたが、寒さにふるえて良く聞き取ることができませんでした。

その頃はまだ朝鮮半島はのんびりしていました。それから半年位たった頃でしょうか。ソウル市内を歩いていると憲兵隊を見るようになりました。本町を歩いていたら憲兵の腕章をつけた兵隊さんがサーベルを腰にぶら下げて町を見回りしていました。私は憲兵隊を見ると無気味でした。ある日一人の兵隊さんが酒に酔ってフラフラ歩いていましたら、憲兵が来て2人ではがいじめにして連行して行きました。その夜私は眠れませんでした。

あの兵隊さんどうなっただろうかと、その事ばかり考えていました。それは父から憲兵隊の話をよく聞かされていたからです。そのような事があってから、ソウル市内で憲兵隊の姿をたびたび見受けるようになりました。それは戦争がだんだん厳しくなっていることを意味していました。市内のお店もだんだん品物が無くなり始めました。夜になると朝鮮の労働者がマッカリという白い酒を飲んで一時を楽しんでいるようでした。

私が3年生になってから朝鮮から内地に帰福しました。内地では朝鮮と違って、若い10代の私達の同級生が中学を中退して親の反対を押し切って予科練習生に志願して行きました。その頃はお国のためならいつでも死ぬのは当然と教育されてきました。余りためらいもなく出征して行きました。私の村には航空隊築城基地がありました。二枚翼の通称赤トンボで毎日のように飛行訓練が行われていました。だんだん戦争が激しくなり、沖縄戦争、つづいて本土決戦となりました。

築城基地や北九州に来襲するようになりました。B29型飛行機グラマン機等が頻繁に来てロケット弾等を落して去って行くようになりました。基地では山間地にいくつか高射砲を据えつけていましたけど、何も役に立ちませんでした。ただ兵隊さんはオロオロして民間の防空壕の中に飛び込んで来ていました。

南方方面では全員玉砕の報が新聞、ラジオ等で報じられていました。沖縄が米軍の基地になってから毎日のように築城基地は空襲を受けました。グラマン機が連隊を組んで築城基地を我が者顔で飛んでいました。私の家は、8月7日午前10時10分頃グラマン機が連隊を組んで来て、低空飛行でロケット弾をバラバラ次から次へと落して行った流れ弾で家が焼けました。低空飛行ですので米軍の飛行士が見えました。1時間以上も築城の空を舞まって去って行きました。私の家に3発、弾が落ちました。家の外側屋敷には18発落ちていました。家の中には祖母と妹がいました。私達は涼しい時に作業をするということで、少し離れた島に草取りに行っていましたので災難は免がれましたけど、祖母は両足に爆弾を受け出血多量で死亡しました。妹は両足にロケット弾の破片が当って大変なケガをしました。でもお医者様のお陰で何回も手術を重ねて歩けるようになりました。

ほんとうに戦争の地獄を見ました。戦地ではこのような事態が毎日起っていると思えば心が痛みました。毎晩夜9時頃になるとB29の飛行機が北九州方面に向っています。「ピーンピーン」とにぶい不気味な音を立てながら。

その時父が一言、大事が起こらなければよいがと心配していた矢先にアア……

北九州に落されたと言った。見ると赤い炎が花火のように夜空を焦がしていた。北九州の人達のうろたえる姿が目には浮かんだ。

そして8月8日、朝から空襲警報のサイレンが鳴ったり解除になったりのサイレンが鳴っていた。今日はどうしたんだろうかと、思っていたらグラマン機が編隊を組んで来て、その時も1時間位築城の空をグラマン機が急降下して来てバラバラ落して去った。

その日は暑い日でした。予科練習生が航空隊の入口付近で訓練を受けていた最中、グラマン

機が来たと言うことで、すぐ横にある池の中に200人の練習生が飛び込んだそうです。

それを敵機が見ていたかどうかわかりませんが、その池の中にロケット弾を打ち込まれて200人の練習生が死亡致しました。こんな悲しい出来事が世界中どこかで起っています。やりきれない気持ちになりました。それから一週間後の8月15日に終戦を迎え、玉音放送を聞いて皆で泣きました。最後まで日本は勝つと思って頑張ってきた。でも今考えて見ると一日でも早くやめていれば、それだけ被害が少なくてよかったと思っています。

今年は終戦50年です。私の嫁いだ主人の兄弟も2人が戦死しています。私達の町では毎年戦死者の慰霊祭を行っています。また法要に行ってきた。私達はこの平和の世の中で何一つ不自由のない生活をし、ぜいたくの限りを尽しています。父、兄弟、友人、同級生の死を考えた時に心が締めつけられる思いがします。

南方方面で亡くなられた兵隊さんは、大半が餓死されたと聞いております。私達は戦争で亡くなられた皆様の御苦勞をいつまでも忘れないで後世に語り続けたいと思っています。時々軍歌等思い出しては昔を懐しむ時もあります。私達同級生や同じ世代の人が集合すると、すぐ昔に戻った話になります。

現在は、科学の進歩で私達がだんだんついて行けなくなりそうです。老人ボケをしないようにと小物等を作って頑張っております。私は社会のために尽す事ができませんので、できるだけ社会のじゃまにならないように祈っております。

下手な文章で申訳ございませんけど、これも老人ボケの予防にと思って書きました。